

# 頑張れ店長

## 今年の経験で節電OK

今年も夏がやってきました。昨年の夏は東日本大震災の影響で業界をあげて節電に取り組みましたが、今年も原子力発電所の停止が北海道、関西、九州で電力不足が予想されています。地域によって電力事情は異なるようですが、各地の店長さんに節電の取り組みを聞きました。

### 値上げにも工夫で対抗

「組合から節電目標などの指示は来ていませんが（6月中旬時点）、昨年の夏は輪番休業を含めて30%の節電、輪番休業を入れなくても15%の節電を達成したので、どういふ指示があっても対応できます。今年の初めには店内照明の大半を消費電力が少ないLEDに切り替えたので、そのぶん昨年より余裕があります」（関東・A店長）

ホール業界は以前からCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）排出削減の取り組みで節電を実施してきたため、昨年夏の節電も比較的スムーズに実施で

きたという経緯があります。

「今年は昨年以上に力を入れて節電に取り組みます。というのも、大口契約の電気料金が値上げされたので、値上げ分を節電で吸収したいからです。昨年の節電策でやれることはやり切っています。今年は前日の使用電力量を発表して、昨年より少しでも下回るように工夫を凝らします」（関東・B店長）

昨年の輪番休業と外回りのネオン消灯は、ホールに対するバッシングを沈静化させる効果があったとB店長は振り返ります。

### 温度を知らせ「お願い」を

「昨年の節電では、スタッフから節電策を募集しました。トイレの照明は人が入るとセンサーで点灯させる（無人のときは消灯）、事務所照明を休憩時間ときは消灯する、空調の設定温度を上げる代わりに団扇を配る（店の宣伝にもなる）、スタッフの制服をアロハシャツに

する、脱水予防に冷水器を用意して冷たい水を飲んでいただくなど、多くの提案がありました。本社に諮ったところ、採用されて全店で実施したのもありました。今年も改めて節電策を募集したところ、

店内放送でホール内の温度を知らせ、お客様に節電への協力をお願いする、キンキンに冷えた使い捨てオシボリを配布するなどが提案されました。今年も昨年よりパワーアップした節電を実施します」（中部・C店長）

昨年はおお客様から「冷房が効いていない」といったクレームがあったので、今年には室温を公表して節電への協力をお願いする」とにしたそうです。

### チョコレートはダメ

「昨年の節電では、開店時と閉店時の作業手順を見直して、使用電力の削減を目指しました。空調や照明は必要最小限にして、台や島の電源を入れている時間を短縮する、電気が必要な作業は後回し

## 店長の投書

うちの店は貯玉に力を入れています。貯玉が多いお客様ほど来店頻度が高いし、景品交換を貯玉に回す分だけ店の経費が抑えられます。その貯玉促進策として最近、「貯玉ランキング」を公表しました。もちろん実名ではなく会員番号で、メダルは玉5個に換算して表示しています。当初は最高で20万個で、その後10万個台が続いていましたが、お客様の競争心を刺激したのか、ライバルが25万個を達成すると、抜かれたほうは30万個でトップを奪回するという具合で、今は40万個をトップに、30万個台、20万個台が続きます。宣伝効果もあって、「この店は、こんなに貯玉できるのか」と、掲示板の貯玉ランキングの前で足を止めて見ていかれるお客様も少なくありません。万が一の場合の貯玉補償基金は、上限が玉25万個（メダル5万枚）までですが、お客様が「この店は大丈夫だろう」と信頼してくれるからこそ、補償の上限を超えて貯玉してくださるのだと思っています。（店長・関東）

## 競争心刺激した「貯玉ランキング」信頼あればこそ

にする、営業中は実際に温度計で室温を測って空調の温度設定を調節する、空調は風量を上げてお客様の体感温度を下げるなどの工夫をしました。しかし、店内の温度が高かったため、景品のチョコレートやキャラメルが溶けたり軟らかくなるといったトラブルがありました。今年の夏はチョコレートやキャラメルを置かないようにしています」（関東・D店長）

## 「コンプガチャ」が社会的問題に 賭博罪適用せず景品表示法違反 他にも課金ゲーム、注意が必要

携帯電話ネットワークやインターネット上で提供されるゲーム(オンラインゲーム)で使われる「コンプリートガチャ(コンプガチャ)」と呼ばれるアイテム商法について、消費者庁は「景品表示法に違反する」という見解を公表しました。コンプリートとは「完成する」という意味。ガチャとは元々「カプセルに入った玩具とその自動販売機」のことで、ガチャガチャとかガチャポンの略。携帯電話やスマートフォンのゲームでは、有料のガチャ(くじ引き)を行ってさまざまなカードを手に入れ、指定されたカードが揃うと、ガチャでは入手できない希少なカードがもらえるというもの。「カードを揃えるために、子どもが何十万円も使った」などの相談が各地の消費生活センターに寄せられたことから社会問題化していました。

当初、刑法の賭博罪などの適用も検討されたようですが、景品表示法違反に落ち着きました。これは「内閣総理大臣は、不当な顧客の誘引を防止し、一般消費者による自主的かつ合理的な選択を確保するため必要があると認めるときは、景品類の価額の最高額若しくは総額、種類若しくは提供の方法その他景品類の提供に関する事項を制限し、又は景品類の提供を禁止することができる」(景品表示法3条)に基づいて設けられた制限で、「二以上の種類の文字、絵、符号等を表示した符票のうち、異なる種類の符票の特定の組合せを提示させる方法を用いた懸賞による景品類の提供は、してはならない」(昭和52年3月1日公正取引委員会告示第3号)に違反するというわけです。この制限は、昭和50年代に菓子の景品として付いてくるカードを何種類か揃えると別の景品に交換できるという商法が流行し、子どもが大量に菓子を購入して問題になったことから設けられたものです。

グリー(「探検ドリランド」などを運営)やDeNA(「ガンダムカードコレクション」などを運営)は、すでにコンプガチャの廃止を決めたようですが、アイテムを手に入れるために課金するゲームはほかにもあります。これからも目が離せません。

(監修・日遊協顧問弁護士 堤義成、同 岩本康博)

### 「地域」に指定され本腰

D店長の店では景品に冷凍食品を置いていますが、昨年の夏に続いて今年の夏も節電のために冷凍食品を扱わないそうです。

「昨年、うちの地域は震災の影響がなかったのですが、外回りの照明を自粛する、冷房の温度を上げるなどで節電に取り組みました。今年は電力不足ということで、本腰を入れて節電に取り組みます。」

東京電力管内のホールが昨年取り組んだ事例を参考にしていますが、電力の総需要を抑制するために従業員の家庭での節電も呼びかけています。エアコンの設定温度を抑えて扇風機を併用する、照明を消費電力が少ないLEDに変えるなど、ホールで行っていることを家庭でもやってもらうわけです。そうすることで、ホールでの節電意識を高めることにつながることを期待しています(近畿・E店長)

### 営業の前後を時間短縮

関西電力管内の電力不足は深刻なようで、家庭も節電に取り組む必要があります。

「昨年は輪番休業分を入れずに15%の節電ができたので、今年ももう一歩進めて店として20%の目標を設定しています。具体的には、開店作業と閉店作業の時間を合わせて1時間短縮すると5%近い節電を図れるので、作業手順を工夫

しているところですが、それと個人的な話になりますが、家庭用電気料金が値上げになるので、わが家でも対策をとっています。深夜電力契約をしているので、電気料金が最も高くなる午前10時から午後5時の間はテレビをつけない、掃除や洗濯は朝のうちにすませるといったことを取り決めています」(関東・F店長)

開店と閉店の作業時間短縮は労働時間の短縮にもつながるので、スタッフは張り切って取り組んでいるといえます。

### いままでが電気のコツ

「昨年の夏に節電に取り組んできました。その後もずっと続けています。外回りの照明を消し、店内照明は半減、冬は暖房温度を低めに設定して、寒がりのお客様にはひざ掛けをお使いいただき、10〜15%の節電を実現しています。スタッフも節電が当たり前になっています。今年、今年の夏の取り組みも特別なことではありません。節電を始めてわかったのですが、照明を落としてもお客様のプレイに影響はないし、冷房温度を高めにしてもクレームはないし、これまでいぶん電気をムダに使っていたのだと思います」(中部・G店長)